

5 年 1 組 社会科 学習指導案

令和 2 年 11 月 26 日 (木) 5 校時

1 単元名 自動車をつくる工業 (「わたしたちの生活と工業生産」)

2 単元の目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産にかかわる人々の工夫や努力をとらえ、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産にかかわる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

【本単元で使う情報リテラシー】 情報のまとめ (新聞)

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産にかかわる人々の工夫や努力を理解している。	① 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、自動車生産にかかわる人々の工夫や努力について考え表現している。	① 自動車生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
③ 調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産にかかわる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解している。	② 自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産にかかわる人々の働きを考え、適切に表現している。	② 学習したことをもとに、日本の自動車づくりのよさについて考えようとしている。

4 単元について

(1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領社会科第5学年の目標および内容(3)から、自動車生産についての学習問題を追究・解決する学習として設定した。

自動車は生産額において我が国の工業生産の主力である機械工業の約50%を占めており、製造工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目することで、自動車生産にかかわる人々の工夫や努力に気づき、工業生産が消費者の需要や社会の変化に対応してよりよいものをつくり出すことで国民の生活を支え豊かにしていることが理解できるものである。

また、自動車は児童にとっても身近な工業製品であり、国別生産台数で世界3位、会社別ではトヨタが世界2位という事実から「なぜ日本の自動車が世界トップクラスなのか」という問いをもって学習に取り組むことができると考える。

このような理由から、本単元を設定した。

(2) 児童について

省略

(3) 指導について

本単元の指導にあたっては、児童の問いから学習問題を作り、主体的に学ばせたい。その際、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目した問いがもてるような資料を導入で用意する。

また単元を通して、調べた情報を思考ツールによって整理・分析したり、グループで考えを交流させたりする。そうすることで、効率よく注文通り正確に大量生産する工夫があること、組み立て工場だけでなく関連工場や運輸関係の協力があること、現地生産など海外との協力関係があること、消費者の需要や社会の変化に合わせて自動車開発が行われていることなど、日本の自動車づくりの工夫や努力を多面的・構造的にとらえられるようにさせたい。

本時の学習では、日本の自動車工業が世界トップクラスであるひみつが伝わる新聞を作るために、これまでの学習で心に残ったことを整理し、見出しを付ける。その際、今まで調べたたくさんの情報から伝えたいことを選び、いくつかのまとまりに整理することの必要性を感じさせたい。

そして、情報を整理した上で、見出しを付けたりキャッチフレーズを考えたりさせる。そうすることで、児童一人一人による問いの答えが導き出され则认为る。

次時は、本時のボーン図を生かして新聞を書き、交換して読む。友達の新聞から、日本の自動車生産が消費者の需要や社会の変化に合わせて行われており、さまざまな立場でかかわっている人々が協力しながら、よりよいものを作ろうとしていることに気づかせたい。

図書資料の利用については、図書資料に目を通すことで教科書とは違う表現の文章や図表に触れ、理解をより確かなものにしたり自分の表現に生かしたりできるものと期待している。

(4) 単元計画と評価 全6時間

時	ねらい	主な学習活動	評価の方法
1	自動車の移り変わりや普及率、自動車生産が盛んな地域などの資料から、学習計画を立てることができる。	自動車の移り変わりや普及率、自動車生産が盛んな地域について調べ、学習計画を立てる。 - クイズ形式で、資料を読み取る。 - 読み取ったことをもとに学習問題を作る。 - 日本の自動車生産のよさについて調べ、新聞にまとめる計画を立てる。	ノート 【態①】
2	自動車工場では、効率よく注文通り正確に大量生産する工夫があることに気づくことができる。	自動車工場では、どのようにしてたくさんの車をつくっているか調べる。 - 自動車の製造工程について調べる。 - 工夫について、目的別に整理する。 - どのような願いをもって作られているか話し合う。	ワークシート ノート 【知・技①】 【思・判・表①】
3	組み立て工場だけでなく、たくさんの関連工場の協力で自動車を作られていることに気づくことができる。	関連工場で自動車の部品がどのように作られているか調べる。 1台の自動車に使われてる部品がどのようにして作られているか予想する。 - 組み立て工場とたくさんの関連工場のつながりを調べて、図にまとめる。 - どのような願いをもって作られているか話し合う。	ノート 【知・技①】
4	自動車の運搬の仕方、海外との関係で現地生産について調べ、協力関係について知る。	自動車の運搬の仕方、海外との関係で現地生産について調べる。 - どのようにして運ばれているか調べる。 - 現地生産について調べ、図にまとめる。 - どのような願いをもって現地生産が行われているか話し合う。	ノート 【知・技①】
5	自動車生産が消費者の需要や社会の変化に対応して行われていることに気づく。	どのような自動車が開発されているか調べる。 - 新しい自動車について調べる。 - どのような願いをもって作られているか、話し合う。	ノート 【思・判・表①】 観察 【態①】

6	これまで学習してきた製造工程・関連工場・海外との関係・自動車開発など日本の自動車工業の優れた点に関連付けて記事にする内容を選んだり見出しを付けたりできる。(本時6／7)	日本の自動車工業の優れた点を新聞にまとめるために、自分の心に残った工夫や努力を選んだり見出しを付けたりする。 ・ 強く心に残ったことを図に整理する。 ・ 見出しを考えてつける。	ワークシート 【思・判・表②】
7	これまでの学習をもとに、自分の考える日本の自動車生産のよさが伝わるような記事を書くことができる。	新聞を読み合い、日本の自動車づくりの良さや特色について話し合う。 ・ 新聞を書く。 ・ 交換して読み、感想を書く。	新聞 【思・判・表②】 【知・技②】 【態②】

5 本 時

(1) 目 標

これまで学習してきた製造工程・関連工場・海外との関係・自動車開発など日本の自動車工業の優れた点に関連付けて、自分の心に残った工夫や努力を選んだり見出しを付けたりすることができる。

【本単元で使う情報リテラシー】

情報のまとめ（新聞）

(2) 学習の流れ

学習活動と予想される児童の反応	支援（・）と評価（◎）
1 これまでの学習をふり返る。	・ 自動車のつくり方・関連工場・海外との関係・自動車開発の工夫や努力について振り返ること、問いが持てるようにする。
2 めあてと学習の流れを確認する。	
日本の自動車生産のすごいところを整理して、読みたくなるような見出しをつけよう。	
3 これまでの学習で心に残った工夫や努力をボーン図に整理する。	・ 自動車のつくり方・関連工場・海外との関係・自動車開発の学習から心に残ったことを挙げて4色の付箋に書き、それを分類しながらボーン図に貼った後、見出しを付ける。その手順をやって見せる。 ・ その際、4色から2つ以上選んで見出し（キャッチフレーズ）を考えるようにさせる。 ・ 必要に応じて再度教科書や資料集に目を通したりして情報を付け加えるようにうながす。 ・ 見出しを考えにくい児童にはこれまで。ノートに書いた感想をヒントにしたりするようアドバイスする。 ・ 見出しができた子には、ボーン図の魚の頭の所に日本の自動車生産のよさに触れてキャッチフレーズを書かせる。 ◎ これまで学習してきた製造工程・関連工場・海外との関係・自動車開発などの優れた点に関連付けて記事にすることを選んだり見出しを付けたりすることができたか。
4 情報を付け加えたり、見出しを付ける。	
5 一人ずつ考えた見出しをグループ内で発表する。	
6 学習のふり返りをする。	

【思・判・表②】

・数名の見出しやキャッチフレーズを紹介する。

【思・判・表②】

・数名の見出しやキャッチフレーズを紹介する。

評価規準

十分満足できる	満足できる	具体的な支援
自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自分の考える自動車生産のよさが伝わるように見出しやキャッチフレーズを考えている。	これまで学習してきた製造工程・関連工場・海外との関係・自動車開発などの優れた点に関連付けて記事にする内容を選んだり見出しを付けたりしている。	見出しを考えにくい子にはこれまでノートに書いた感想をヒントにして考えさせる。 内容を選びにくい子には先に見出しを考えさせて、その根拠となる内容を選ぶようにさせる。

6 研究協議の概要

参加者	校内 18名、 校外 27名 計 45名
授業及び研究協議の概要	(授業の概要) オンライン授業による参観 前時までに調べて分かった日本の自動車生産の多くの優れた点について新聞にまとめるための情報の整理を行った。その際、自分が特に伝えたいと感じたことを見出しとしてボーン図に付箋を貼りながら分類し、さらにキャッチフレーズを考えた。自分の主張を明確にするために、図書館の資料を手にして情報の付け加えをする姿も見られた。 (授業後の塩谷京子先生による講義の概要) ・本時の授業を一つの事例として、主体的・対話的で深い学びの基盤となる能力の育成と授業づくりについて講義があった。体系表をもとにした情報活用教育の推進役として、学校司書や司書教諭が期待されていると結ばれた。